

腔閉鎖 + 睾丸インプラント + 陰核陰茎形成術

タイ(ガモン・クリニック)

滞在期間 3 週間(入院期間 2 週間)

術前の申込: インターネットにて行った
必要な書類・検査内容の連絡があり準備した。

会社での検診の結果を利用し報告・感染症(HIV 含む)など足りない項目は
かかりつけの病院でもらった。

必要書類に「英語の診断書」があり、精神科クリニックへ連絡し予約を取り受診。
事情を説明し書いてもらった。

受診日に行くと書類は既に準備されており、先生に「頑張ってきてください」とメールを送られた。

予約金の入金(アテンダンス料金)を済ませ

その後、睾丸インプラント料金の前払いの連絡があり入金を済ませた。

1 日目

成田 18 時 50 分発

バンコク到着 23 時 55 分

2 日目(手術当日)

オペ当日。10 時にクリニックへ。

健康診断の結果、その他の書類を提出し、Dr の診察を待った。

Dr と面談し、下半身の写真を撮り、あそこの長さを測り内診を受ける。

そして、手術についての説明という形で進み。

必要書類にサインをしてオペが決定した。

そして、当時のレートで手術費用の支払い。とアテンダンス料の残りの支払いを済ませた。

手続きが済むと入院する病室の方へ案内された。

病棟には看護師さん達がいて、僕を見るなり、
ニコニコして挨拶をしてくれた。

アテンダンスの人(ブイさん)が側にいてくれて、日本語でいろいろこれからの事を教えてくれた。
貴重品は(日本円とパスポート、カード類)クリニックに預けた。

荷物を置いて一息つく間もなく、処置が始まった。

術前処置

剃毛・浣腸(洗腸)のあと、手術前最後のシャワーを浴びた。

シャワー後に点滴開始

日本からの長旅と、夜中に付き夜もあまり眠れなかったのと、浣腸の疲れ？で眠気が襲いそのまましばらく寝てしまった

麻酔科の先生の到着待ちで、予定より遅れて 17 時 30 分頃オペ室へ

歩いて手術室へ行き、手術室手前でアテンダンスのプイさん横須賀さんと別た。

(手術室は一人になるので、少しは英語が話せないと困るかも)

病棟の看護師さんと手術室の看護師さんが、僕を手術台に案内し、そこに寝るように促した。

手術室は少し小さめだったが、日本の手術室と変わらない。

暫くすると、麻酔科の先生が登場。

日本語で話してくれたので、自分も日本語で挨拶。

そして、日本語で「これから眠くなりますよ～。ちょっと手が痛くなりますよ。」と説明してくれた。

少し点滴の刺入部が痛いなぁ～と思いながら。眠気が強くなり意識が無くなったのである。

ふと、気づくと手術は終了していた。

手術室の隣の部屋のリカバリルームにいつの間にか移っていた。

看護師さんが目が覚めたことに気付き、「痛いですか？」と聞いてきたが「痛くないと答え」

「ああ終わったんだ」と思いながらまた眠りについた。

リカバリルームでは、看護師さんが一人付きっきりだった。

3 日目(術後 1 日目)

朝 6 時。ベッドを病室に移動し、

体を拭き、ガーゼを交換し、病衣を交換してくれた。そして検温。

ちょっとすっきりして、再びうとうと寝てしまった。

8 時に食事で起こされた。

朝食はトーストと目玉焼きとサラダという洋風なメニューだった。

少しベッドをギャジアップし、術後初めての食事をした。

10 時過ぎに、Dr の術後初めての診察を受けた。

アテンダンス会社から通訳と責任者の 2 人が付き添って術後の状態を通訳してくれた。

かなり腫れているらしく、「2 週間では管が抜けないかもしれない」と言われた。

管を入れたまま帰って、日本の Dr に抜いてもらうか。滞在期間を延長して抜いてから、帰国するか。という事を聞かされた。

12 時頃昼食

14 時頃検温

16 時頃午後のベッドバス(清拭・・・体拭き)と看護師さんの消毒(クリーニング)

18 時頃夕食

20 時頃検温

21 時頃消灯

以上を数日繰り返す

4 日目(術後 2 日目)

術後 2 日目以降も、同じ時間帯に食事とガーゼ交換(朝は Dr・午後は Ns)が行われた。

ベッド上安静だったので同一体位により腰が痛くなり辛かった。

痛み自体は我慢できるのだが、傷の痛みと違う何とも言えない押し付けられるような痛みがあり、初めは何の痛みか分からなかった。

しかし、傷の痛みが治るにつれて、腫れてい事による痛みであること。その原因の一つが、睾丸インプラントを入れたことにより、皮膚が伸ばされる事による痛みである事がわかった。

初めは、正直もう取り出して欲しいと思った。

ミニペニスはというと、それはそれは醜く腫れていて、初めて見た時は「何じゃこれは！」と思った。

一番の苦痛は食事。朝は空腹になるが、その後は食べたくないという状況がずっと続いた。

水を多量に飲まなくてはいけないので空腹感がなかったのだ。

「尿管(ハルンチューブ・・・先に風船(バルーン)を膨らませるので病院では大体バルーンチューブと言う)が入っているので、

感染予防の為に、水を沢山飲むように(2L)言われていた」

食事をあまり食べられない理由はもう一つ。それは、大便の問題だった。

ベッド上でするのは嫌だったので、歩けるようになるまで我慢したのだった。

6 日目(術後 4 日目)

術後 4 日目の朝。看護師さんが付添って、術後初めてベッドから起き上がった。

「急に動くと貧血になったりして危険だからゆっくり動くように」と言われた。“もちろんわかってますよ～”と思いつつ、看護師さんに甘えゆっくりと室内を歩いた。

分かっているながらも、起き上がって歩くと”フワフワ”した感じで、3 日寝込むと筋肉が落ち、元の筋肉に戻るには 1 か月かかるとか言われていた事がよくわかった。

歩くのは「トイレとベッドの周りだけ」と言われた。

さっそく洗面と洗髪をした。そして、念願のおトイレへ。

大便の時はどうしても、腹圧がかかるのだが、排泄後血がポタポタ落ちて、自分は看護師だというのにドキドキ！しながらベッドに戻った。

縫合不全とかだったらどうしよう…。漏れとかだったら…と不安になった。しばらく横になり、その後は出血は落ち着いていたようなので少しホッとした。

その後先生の診察を受ける。

予定だとこの日退院してホテルに移る予定だったのだが、まだ腫れと出血しているので、退院は翌日へ延びたのだった。

しかし、少し不安だったので、実はホッとした。

そして、歩いたり立ったりすると、手術部位がさらに腫れたように痛くなった。これはまだまだだ…と感じたのである。

7日目(術後5日目)

朝の先生の診察・消毒で翌日は退院できると言われた

8日目(術後6日目)

退院といっても、近くのホテルに移るだけなのだが。

午後のクリーニング(消毒)もあるので夕方まで病院で過ごすこととなった。

時間までインターネットしたり、パズルをしたり、寝たりいつもと同じように時間を過ごした。

4時30分ごろに午後の消毒をしガーゼ交換を済ませた。着替えは自分の服へ。

内服薬をもらい、説明を受けた(服用方法は日本語で記入してあった)

クリニックの運転手さんが、ホテルまで送ってくれるのでしばらく時間まで待った。

看護師さんが、僕の事を“動き回りそうで心配”と心配してくれ、車に乗るまで付いてきてくれた。僕は「大丈夫だよ」と元気よく手を振って答えた。

通訳のブイさんも一緒にホテルまで行って、チェックインとセーフティーボックスに貴重品を預け、自分のホテルの部屋まで案内してくれた。

「何かあったら遠慮しないで連絡して」と言葉を残し帰っていったのであった。

術後一人になった自分は何となく寂しさと、心細さと、開放感があった。

取りあえずやりたかった事は、髪の毛を洗う事。洗面所に行って体を拭き下半身を洗う。

ほんの少し立っているだけで、陰部に圧迫感があり痛みがひどくなった。

すぐにベッドに戻り休憩する。

夕食は食べたくないの、バナナとチョコレートで済ませた。

食事をたべられないのは、水を2L飲まなくてはいけない事も理由の一つだった。日本ではお茶や野菜ジュースなど、を主に飲んでいて、味の無い水を無理に飲まなくてはいけないのが苦痛だった。

水を飲まなくてはいけない理由は、尿管(バルーンチューブ)が入っている

からだ。感染予防の為に大事なことなのだ。

チューブが付いたまま退院し、パックに溜まったら自分で捨てて管理をしないといけない。チューブを付けて歩く姿は、犬のポチが付いてきているような感じ。(パックを膀胱より上に上げると、逆流して感染し易くなるのだ)

痛みは安静にしていれば、治まったが腫れもあるし、抗菌剤と抗炎症剤と一緒に鎮痛剤を飲んで早めに休んだ。出血で汚してはいけないので、クリニックからもらったシートを引いてその上で寝た。

9日目(術後7日目)

初めてホテルでの朝を迎える。

モーニングを食べにレストランへ。もちろんポチ(尿バック)付き。

椅子を汚さないようにシートを敷いて座った。

バイキングだったので好きなものを選べたので良かった。

朝のトイレにてまともや排泄時に、血がポタポタと落ち、不安になる。

クリニックからの迎えがくるまで、静かにしていた。

クリニックの迎えの時間の5分前にロビーに行くと、もう迎えは来ていた。

クリニックへ着くと、笑顔でスタッフに迎えられ、消毒をする部屋に通された。

着いてから服を見て看護師さんが、僕のショーツを洗濯してあげると新しいズボンをもって来てくれた。

実は下着を付けなくていいように、ロングタイプの海水パンツをはいていたのだが、血で汚れていたのだ。

ベッドに横になって、消毒をまわっていると、看護師さんがガーゼをはずしてみると「ん？」と一瞬凝視し、「痛い？」と聞いてきた。

数日前からなんとなく気づいていたのだが、タマタマの位置が左右ずれていて、左側が前の方に出てきていたのだ。

すぐ先生が呼ばれ、何やらタイ語で看護師さんと話している。先生は慌てる様子もなく、「あらま。ずれちゃったねえ・・・」みたいに笑顔。

そして、通訳のプイさんが呼ばれ「明日また入院して局所麻酔で位置を治す」と言う事を伝えられたのである。

ズレた原因は大陰唇の大きさが狭く、行く場所がなくなってずれたらしい。

その日は午後の消毒もあるので、そのままホテルに帰らず、消毒終了後ホテルへ戻った。そして、翌日再度入院するために荷物をまとめて準備をしたのである。

相変わらず、歩行後は腫れて痛みが強くなる状態、痛み止めを飲んでこの日も休んだ。

10日目(術後8日目)

翌日、予定の時間に通訳のプイさんが迎えに来て、チェックアウトなどの手続きを済ませてくれた。

迎えの車に乗り病院へ。そして、昨日休んだ部屋(2人部屋)に入院することになった。

早速着替えとクリーニング(消毒)をして、ベッド上で安静にしていた。

消毒の時、初めの手術の時に剃った毛が伸びていたのもたまたま剃られることになった。

手術予定時間に看護師さんと手術室へ歩いて行った。

前は中まで病棟の看護師さんは入ってこなかったのだが、今回は2人入ってくれて、とても心強かった。

手とか足を擦ってくれて、何だか心配してくれている感じが伝わってきた。

手術室は寒いので「寒い…」と伝えると毛布とかを沢山かけてくれた。

そして、局所麻酔が始まり。「痛い？」と聞かれたが「ちょっと…」と我慢し何とか耐えた。そりゃあそこに注射するんだから痛いよね…。

そして、麻酔が効いた頃手術が始まった。

上に移動してしまったものを無理やり引っ張りだすのだから、これは痛い。

切る痛みはなかったけど、重～い「ず～ん」とするいたみがあって、思わずそばにいた看護師さんの手を“ぎゅ～っ”と握ったのだった。

その看護師さんは、そのままずっと自分の足とかを擦ってくれていた。

痛みの峠を越えて、やっと看護師さんの手を放し「ありがとう」とお礼を言ったのである。

無事に手術は終わり。病室へ移動。

そして、手術室の様子を見ていた他の看護師さん達に、僕はからかわれたのである。「日本に連れて行っていいよ～」と。

一番美人の看護師さんの手を握っていたのだから尚更…。

11日目(術後9日目)

夕方になると、麻酔が切れて何とも言えない痛みが出てきた。

鈍い痛みで、引っ張られる感じだ。

早めに痛み止めを希望し、注射を使ってもらった。

しばらくすると、楽になってうとうと寝た。

しかし、痛み止めが切れるとまた痛くなってきて、何とか0時近くまで我慢して今度は内服の痛み止めをもらって飲んだ。そのまま何とか朝まで寝る事ができた。そして朝にもう一度痛み止めを内服して、手術後の痛みは何とか治まった

初めの手術の時より、この局所麻酔での手術の方が自分としては辛く感じた。

術後は、再びしばらくベッド上安静が続いた。

今回は排便時は歩いてもいいという事だったが、部屋にはトイレがなく、下半身は何もつけていないので(ベッド上ではタオルケット)、廊下を覗き人がいないの見計らって、トイレに行くのであった。

しかし、廊下は看護師さんがほぼ必ずいるので、下半身露出している(と言っても、セクシーパジャマ状態で大事な部分は見えないのだけど)僕を見つけ笑われていたのだが、笑いながらも急ぐ自分に、ゆっくり歩くように言って、トイレに案内してくれた。

2 回目の手術の後は、そのまま 1 週間近く入院生活となり、
トイレと室内を少し歩く以外は、ほとんどベッド上で安静にしていた。

毎日 PC とパズル・TV と寝るという怠惰な生活…。
体拭き・2 回の消毒と検温と同じことの繰り返し。

ネットもつまらないので YOU-TUBU でアニメとか見て時間を過ごした。
「あたしんち」があったので、丁度いい時間つぶしになった。

一番心配だったのは出血だった。
内摘は他の病院でしたので、もしかして止血とかで問題があってなかなか血が止まらないのだろう
か?? 術後の尿意が強かった時に腹圧がかかったからじゃないか? などいろいろ考えてしまった。

それでも、徐々に量は減っていた。術後 3 日後(2 回目の手術の)に退院の話もあったのだが、排便後に
またドッパッと出血してしまったのだ。
新鮮血ではなく、赤黒いどろっとした血だったので古いものだとは思ったが、いつまでも続く出血に対して
不安で、看護師さんにすぐ見てもらった。

先生が圧迫して古い血を絞り出し(ちょー痛い)洗浄をして、「まだしばらく入院ね」と告げられたのである。

しかし、入院が伸びたことで、安静がまもられたのか、ミニペニスの部分がかかなり腫れていたのだが、
徐々に腫れも引いて立っても痛い感じが無くなってきたのである。

14 日目(術後 12 日目)

術後しばらく安静にしていた。2 度目の病室にはシャワー室がなかったので、看護師さんにシャンプーを
してもらった

16 日目(術後 14 日目)2 度目の退院

今回は、バルンチューブ(尿管)を抜くための準備、膀胱訓練をする事になった。
チューブの途中をゴムでしばっているの、管は以前のように下に垂らす必要もなく、コンパクトにポケッ
トに仕舞っておけた。

尿意を感じたらゴムを外して尿を流すのだが、尿意がなければ時間で開けなくてはならない。水を多く飲
んでいたの、2~3 時間おきに開けないと、膀胱がパンパンになって、大変な事になってしまう。もちろん
夜間は寝るので開けたままだ。

初めはなかなか尿意がなくて、500~600cc も溜らないと尿意を感じなかったり、下腹部が痛くなったりし
て、時間で開けたりしていた。

徐々に尿意もしっかりして、300~400cc でしっかり感じるようになっていった。

今回の退院は 2 回目なので手続きも簡単に済ませ。部屋に戻ると初めて買い物に出かけたのであった。
タイの初めての買い物と言っても、セブンイレブンだったので、日本とそれ程はかわらない感じ。品揃えも
似ているし。日本の製品もあったので違和感はなかった。ただ、弁当はないし、ハンバーグとかは自分で

野菜とか挟んだりするらしく、ちょっとびっくり。

以前は少し立っているだけで、腫れと痛みが強くなったのだが、この頃にはもう腫れも引いていて、かなり動いても平気になっていた。

しかし、術後長い期間ベッド上の生活をしてきた事と、食事が十分に取れていなかった事で、筋肉が落ちてしまい、ちょっとした事でお尻筋が攣ってしまう状態だった。3日寝込むと筋肉が落ち元に戻るのに1週間以上かかると言われていたが、その事を身をもって実感した。

17日目(術後15日目)

18日目(術後16日目)

尿管の抜去に向けて、膀胱訓練し2日目。この日は管を抜く予定日だった。

朝排便の時に管を止めたままに力を入れてしまい、

当てていたガーゼが濡れたので、尿漏れ?かと思い不安になった。

尿は入っている管を伝い漏れたのかもしれないが、その時は凄く怖かった。

いつものように朝、消毒の為にクリニックへ行き

予定どおりに先生に管を抜いてもらった。

痛くないように息を吐き力が入らないようにしていたのだが、

全然痛くなく抜けた。

消毒後、看護師さんから、“初めて排尿する時は看護師を呼ぶように”と言われた。

尿意がでてきたので、トイレに行くことを看護師さんに告げると、

看護師さんがトイレに付いてきた。

初めての排尿は看護師さんが観察をする事になっていたのである。

見られているのと、尿意があるものの、久しぶりの排尿だった事と、

急に腹圧をかけてはいけないと言われていたので、なかなか尿が出なくて、焦ったが

チョロチョロと細いが尿が、どうにかミニペニスの先から出てきた…。

看護師さんの視線を受けながら、初めての排尿をしたのであった。

尿が無事に出るのかどうか、尿漏れはしないだろうかと言う不安はあったが、17日振りの管のないフリーな状態が凄く嬉しかった。

19日目(術後17日目)

尿はかなり太く出るようになり、尿漏れはない状態。

しかし、尿は時々あちこちに飛び散る事もあって、心配だったが、

子供を持つ通訳のブイさんや MTF さんが

「男の子の小さい頃に練習するのよ」

と励ましてくれた。

20 日目(術後 18 日目)

この日、最後のクリニック受診となった。朝、Dr の消毒・診察を受け帰国が決定した。

出血がまだあるので、1 日 2 回消毒をするように言われた。

Dr に帰国後の事をいろいろ確認(スポーツや飲酒など)。

事務の人から、手術の診断書(英文と日本語)を受け取った。

消毒セットと生理食塩水・軟膏、内服薬をもらった(かなりの荷物になったが、スーツケースに何とか入れた)

その後は看護師さんたちと写真を取ったりして過ごした。

午後の消毒の時に看護師さんから帰国後の消毒の指導を受けた。

タイ最後の日、昼と夜をタイショッピングセンターのレストランで食べた。

調子が良ければ、タイの街を観光でもできたかもしれないが、

出血・2 度の入院があり安静にしていたので、これが初めての遠出となった。

まだ、ガーゼを当てており、出血量も多いのでズボンが汚れる可能性が高く、

恥ずかしながら、生理用品を購入し帰国の準備をした。

21 日目(術後 19 日目)帰国

まだ暗い 4 時にホテルを出発。バンコクの空港へ向かった。

出国手続きはかなり厳重だった。

6 時 00 分バンコク出発

14 時 35 分成田空港到着

帰国後

5 日間自宅療養をした。

1 日 2 回の消毒を続けた。消毒前にシャワーを浴び清潔にしてから消毒をした。糸はまだ残っているじょうたい。

< 職場へ >

帰国 6 日目には職場に復帰。やはり体力が落ちていてかなり疲れた。

< 術後の経過 >

出血は徐々に減ってきていたが、2 週間続いた。

もらっていた消毒セットもなくなり、職場からガーゼをもらったり購入したりで何とか消毒を続けた。

帰国の時もらった内服薬ももう既になくなっていたが、出血が続いていたので不安だった。

ところが、2 週間後急に出血が止まったのだった。

これで、消毒も必要なくなりホッとしたものの、急に止まったので大丈夫だろうか? と不安だった。

<再出血>

出血が止まり3日後倦怠感が強くなり、微熱が出る。

風邪症状があり、4日目に37.5後半の熱が出た。ふと見ると単径部に発赤がある。心配だったが、解熱剤と風邪薬を飲んで休んだ。

6日目に帰宅後、38.5の発熱と倦怠感・咽喉の痛み咳きがあり風邪だと確信。解熱剤を内服。

7日目に悪寒があり、かなりの咽頭痛があり熱が出ている感じがした。帰宅途中で薬局により解熱効果の強い風邪薬を購入。

帰宅後測ると、39.5の発熱があった。悪寒が強いので服を着こみTVを見ながら安静にしていると、パンツに暖かいものが

そして、何とも言えない臭いにおいがして、トイレに。おならの臭い便のような。おなかの調子も悪かったので、その臭いかと思ったのだが、

パンツを下ろしてビックリ！何と出血が多量に・・・しかも膿様のもの。

慌ててシャワーを浴びきれいにしてから、消毒セットを出し、鏡をみて出血部位を確認すると、閉じていた部分が開いていた。(まだ残っていた糸が無くなっていたのでそこがはじけたのかも)

Nクリニック受診

その後、消毒を(1日2回)再開し、不安が強かったので、日本のNクリニックへ連絡し数日後予約日に診察をしてもらった。

(出血が続いていた時メールで診察できるかどうか確認をしていたのでスムーズに予約する事ができたのだ)

その時は、出血は薄くなって淡黄血性になっていたのだが、その色を見て「尿漏れじゃないか？」といきなり「ブジー」(針金みたいなもの)を尿道に突っ込まれたのだ。そんなはずはないと思ったが、Drの言う事だからそうなのかなあ・・・と思いながらも。

「膣閉鎖の時の出血の残りが溜まっていて、出てきたという事はありませんか？」と反論。

「その可能性もあるがMRIとかで見ないとわからない。おそらく尿漏れだろう」

「直接的な尿漏れはないが、中でどこかが漏れていて、それが回って出てきているのではないか。出ている浸出液が黄色いし」

「時間が経てば閉じるのかもしれないが修正手術をしないといけないかもしれないから、様子みてためならアテンダンス会社に連絡するしかない、訴訟もんだよ」と言われた。

安心する為に受診したのに、不安を煽られるような感じだった。

そのまま何もしてくれなさそうな感じだったので、「抗生剤とか内服を試みたら良くなるのでは？」と食い下がり

抗生剤を5日分処方してもらった。(ポツタクリに近い値段を取られて・・・1錠400円)

<タイへ連絡>

その後一応タイのクリニックへ状況を連絡。写真を添えて。

感染を起しかけているのかもしれないので抗生剤を処方してもらって下さいという事で、自分の考えと同じだった。

<消毒>

しばらくは、シャワーで清潔にして、消毒をする。抗生剤の内服とゲンタシン軟膏の塗布。1日2回行った。

<再出血してから2週間後(帰国してから1か月と7日後)>

日々浸出液の量も減っていたが、完全に止まった。

よく見ると残っていた糸もなくなっていた。(再出血した時にそこが開いて廃液したのかも)

<術後半年>

尿漏れ・その他のトラブルは今のところなし。

たまにつれるような感じの軽い痛みが走ることはある。しかし、術後なので仕方ないと思う。

生活は普通に送っている。変った事は下着。今までボクサーパンツのぴったりするタイプを好んでいたが、タマとペニス部に圧迫感がありニットランクスになった。

タイランドSRSガイドセンター